

## Ⅱ 25年度自己点検評価報告書 個別表

【書式A】

施設名 処理番号 

大項目	Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(1) -1 適時適切な収集							
【年度計画】								
各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ確かな情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 (東京国立博物館)								
日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長 富田 淳					
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>購入件数 5件。内訳：絵画1件、彫刻1件、金工1件、東洋染織2件。</li> <li>決算額 123,950,000円</li> </ul>								
25年度は、絵画1件(伝霊彩筆文殊菩薩像)、彫刻1件(如意輪観音菩薩坐像)、金工1件(重要美術品 線刻千手観音鏡像)、染織2件(帯 銀地花卉段文様モール錦、帯 銀地花卉鱗文様モール錦)の計5件を購入した。								
【補足事項】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>絵画の文殊菩薩像は東福寺系の仏画に属する15世紀の作品として、総合文化展「禅と水墨」に活用ができる。</li> <li>彫刻の如意輪観音菩薩坐像は鎌倉時代の優品として、密教彫刻・檀像彫刻・観音信仰などのテーマで幅広く展示に活用ができる。</li> <li>金工の重要美術品 線刻千手観音鏡像は、バランスの整った形姿や緻密な四十臂の表現など、鏡像としては特に優れた作ゆきを示すものである。</li> <li>染織の帯 銀地花卉段文様モール錦、帯 銀地花卉鱗文様モール錦は、いずれも日本国内においては数少ない完形品であり、東洋館13室の展示に活用できる。</li> </ul>								
								
如意輪観音菩薩坐像								
【定量的評価】								
項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品件数	115,653件	—	—	経年変化	112,776	113,258	113,897	114,362
うち国宝	87件	—	—		87	87	87	87
うち重要文化財	633件	—	—		624	629	631	631
購入件数	5件	—	—		8	4	0	5
総合的評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (東京国立博物館)								
日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(1)-1 適時適切な収集								
<p>【年度計画】</p> <p>各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。</p>									
担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長 鬼原俊枝						
<p>【実績・成果】</p> <p>・購入件数0件 今年度は、購入がなかった。</p>									
<p>【補足事項】</p> <p>平成知新館（新平常展示館）の開館に向けての展示器具の調達など、さまざまな準備業務に予算を重点配分したため、当初計画とは異なり、購入費の捻出ができなかった。なお、次年度以降に購入すべき案件候補について、予算規模に合わせて柔軟に対応できるように選定作業を進めた。</p>									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
収蔵品件数		6,721件	—	—		6,526	6,584	6,621	6,708
うち国宝		27件	—	—		27	27	27	27
うち重要文化財		179件	—	—		176	177	177	179
購入件数		0件	—	—		7	23	13	1
総合評価	S A B C <b>Ⓕ</b> (S、Fの理由)購入予算がなかったため。								
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					要注意				

【書式A】

施設名 奈良国立博物館処理番号 1113

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(1) - 1 適時適切な収集							
【年度計画】 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ確かな情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料等の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長 岩田茂樹					
【実績・成果】 ・購入件数 3件 内訳：絵画1件、書跡1件、金工1件 ・決算額 40,350,000円  購入により3件の文化財が新たな収蔵品として加わった。 ・絵画 絹本着色弥勒菩薩来迎図 1幅 南北朝時代(14世紀) ・書跡 延長四年二月十三日民部省符 1幅 平安時代延長4年(926) ・金工 柄香炉 1柄 平安時代(9～12世紀)								
【補足事項】 ・絵画部門の購入品である絹本着色弥勒菩薩来迎図は、弥勒菩薩が諸聖衆とともに来迎する様を山水の景のなかに描いた絵画で、阿弥陀来迎図に比べて現存作例の少ない弥勒来迎図の希少な遺例。南都に継承された図像に基づくことが判明しており、中世の南都が生み出した仏教絵画の展開を示す貴重な作品。 ・書跡部門の購入品である延長四年二月十三日民部省符は、我が国の古代律令政府の中心である太政官の下にある民部省から、大和国に宛てて出された符(上意下達文書)の原本で、弘福寺(大和国高市郡)が不当に収公された寺田の返還を求めているのに対し、それを認可する内容のもの。同種の古文書はかつて多数現存したはずだが、現在に伝わる原本は数少なく、本文書は古文書学・古代史研究上の史料として著名かつ貴重。 ・工芸部門の購入品である柄香炉は、僧侶が手にとって香を焚き、仏を供養するために用いる仏具で、通常は銅製であり、鉄製のものは珍しい。火炉が浅く朝顔形に口縁が大きく広がり、脚柱が短い安定感ある形状を示す。このような特徴から、平安時代にさかのぼる遺品と目される。								
[購入品] 絹本着色弥勒菩薩来迎図								
【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
収蔵品件数	1,862件	—	—	経年 変化	1,812	1,827	1,831	1,834
うち国宝	13件	—	—		12	13	13	13
うち重要文化財	111件	—	—		110	109	109	111
購入件数	3件	—	—		4	7	4	2
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。							順調	

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(1)-1 適時適切な収集							
【年度計画】								
各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 (九州国立博物館) 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 富坂 賢					
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>購入件数15件 内訳：絵画4件、書跡1件、彫刻1件、陶磁1件、漆工1件、染織3件、考古1件、歴史資料3件</li> <li>決算額 724,756,100円</li> </ul> <p>当館のテーマである日本とアジア諸国との文化交流の足跡を示す作品を収集する一方で、日本の王朝文化を象徴する作品として、優れた文化財を15件購入した。</p>								
【補足事項】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>15件を購入した。</li> <li>絵画分野においては、12世紀の王朝文化を伝える「紙本著色病草紙断簡（痣のある女）」、14世紀の中国で描かれ、マニ教研究史上にも貴重な「絹本著色摩尼誕生図」等、4件を購入した。</li> <li>書跡分野においては、中国・元時代を代表する禅僧で、日本僧も多く参禅した月江正印が執筆した「紙本墨書月江正印墨蹟 識語」を購入した。</li> <li>彫刻分野においては、平安時代後期の神像の優品で、同時代の後屏も付属する「女神坐像」を購入した。</li> <li>陶磁分野においては、17世紀の伊万里で焼かれた輸出用の色絵磁器「色絵花鳥文六角壺（柿右衛門様式）」を購入した。</li> <li>漆工分野においては、中国・明時代嘉靖期の典型的な彫彩漆の特徴を備え、官営工房作と推考される「春字彫彩漆合子」を購入した。</li> <li>染織分野においては、18世紀のインド更紗の優品で、オランダ東インド会社の「VOC」印が捺される「茜地花丸花唐草文更紗」や、インド更紗を用いて18世紀の日本で仕立てられた「格子緋更紗間着」、首里で作られた紅型や煮紵芭蕉布、「薩摩上布」の名で薩摩藩から江戸幕府に献上された八重山・宮古の上布など多彩な資料で構成される「紅型・琉球衣裳」等、3件を購入した。</li> <li>考古分野においては、古墳時代後期の大型鏡で百済との密接なつながりを示す(重要美術品)「伝三上山下古墳出土 獣帯鏡」を購入した。</li> <li>歴史資料分野においては、中国明時代の医学の影響を受けた室町時代後期の医学書「紙本墨刷阿佐井野版医書大全」、大和国添上郡檜中郷五条五里一坪に関し、天曆8年(954)から長保4年(1002)までの所有権移転を示す手継証文を貼り継いだ卷子を含む「東大寺等関係文書」等、3件を購入した。</li> <li>いずれも、我が国と大陸あるいは九州と本州等との交流を物語るもの、あるいは、時代の美意識や工芸技術の高さを端的に示す優品であり、当館の文化交流展示における基礎をなすものといえる。</li> </ul>								
								
[購入品]紙本著色病草紙断簡（痣のある女）								
【定量的評価】								
項目	25年度実績	目標値	評価		21	22	23	24
収蔵品件数	493件	—	—	経年変化	397	433	453	474
うち国宝	3件	—	—		3	3	3	3
うち重要文化財	29件	—	—		27	28	29	29
購入件数	15件	—	—		27	31	17	18
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (九州国立博物館) 日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1121

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承																																																
事業名	(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用																																																
【年度計画】 (4館共通) 1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。																																																	
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長 富田 淳																																														
【実績・成果】 1) ○寄贈 ・新規寄贈品件数 471件 内訳：絵画5件、書跡11件、彫刻1件、金工414件、刀剣2件、染織4件、歴史資料1件、東洋金工29件、東洋彫刻1件、東洋染織1件、黒田記念館収蔵品2件。 ○寄託 ・新規寄託品件数 20件 内訳：絵画2件、書跡2件、彫刻10件、漆工3件、東洋絵画3件。 ・寄託品は新規に20件を受け入れ、64件を返却した。 ・寄贈者については、平成館の寄贈者顕彰版コーナーをリニューアルし、多くの来館者の方々にこれまでの寄贈者の方々のお名前をご覧いただけるようにした。																																																	
【補足事項】 ○寄贈 ・作品の寄贈については15名の所蔵者から、471件の文化財を受け入れた。 ・絵画の寄贈品のうち、「源氏物語図屏風」は、現在唯一確認される本間屏風の源氏絵で、近世初期の風俗画や物語絵巻等に、特徴的な人物描写の類作を残す画系の源氏絵作品として重要な作例である。 ・黒田記念館収蔵品の寄贈品「グレーの原」は、黒田がフランス留学中にグレーで制作を行い、サロン入選を目指していく時期のもので、黒田記念館の作品群を補う貴重な作例である。 ○寄託 ・作品の寄託については6名2機関から、20件の文化財を新規に受け入れた。 ・寄託品の東洋絵画1件(794点)は、日本の個人所蔵の中国絵画コレクションとしては質量ともに最大規模のものであり、展示と研究に活用が期待できる。																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th> <th>25年度実績</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> <th rowspan="5">経 年 変 化</th> <th>21</th> <th>22</th> <th>23</th> <th>24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規寄贈品件数</td> <td>471件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>43</td> <td>23</td> <td>151</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>寄託品件数</td> <td>2,519件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,734</td> <td>2,726</td> <td>2,689</td> <td>2,563</td> </tr> <tr> <td>うち新規寄託品件数</td> <td>20件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>登録美術品件数</td> <td>23件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	21	22	23	24	新規寄贈品件数	471件	—	—	43	23	151	63	寄託品件数	2,519件	—	—	2,734	2,726	2,689	2,563	うち新規寄託品件数	20件	—	—	3	5	7	3	登録美術品件数	23件	—	—	3	3	3	2
【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	21	22	23	24																																									
新規寄贈品件数	471件	—	—		43	23	151	63																																									
寄託品件数	2,519件	—	—		2,734	2,726	2,689	2,563																																									
うち新規寄託品件数	20件	—	—		3	5	7	3																																									
登録美術品件数	23件	—	—		3	3	3	2																																									
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)																																																
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。																																																	
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調																																													



[寄贈品]  
黒田清輝筆 グレーの原

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用							
【年度計画】 (4館共通) 1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。								
担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長 鬼原俊枝					
【実績・成果】 1) ○寄贈 ・新規寄贈品件数 13件 内訳：絵画5件、書跡1件、金工3件、漆工3件、染織1件 ・今年度寄贈品13件のうち、書跡1件は寄託品からの寄贈である。金工3件のうち、「刀 無銘（名物島津正宗）」は近代以降に所在が不明であった名物刀剣であり、当館の刀剣コレクションが質・量ともに充実した。絵画では、海北友松、谷文晁、田能村竹田をはじめとする著名な近世の画家たちの優品を相次いで受贈した。 ○寄託 ・新規寄託品件数 70件 内訳：絵画25件、書跡2件、彫刻2件、金工12件、陶磁20件、染織8件、考古1件 ・件数では昨年度より若干減少したが、来年度からの平常展示の再開に向けて、京都周辺の寺院から展示の目玉となる国宝・重文クラスの寄託を受けることができた。また、「狩野山楽・山雪展」や「魅惑の清朝陶磁展」など特別展開催を契機に、数多くの展示作品を寄託いただいた。								
【補足事項】 ○寄贈 ・寄贈は13件で、寄贈者は13人（うち1件は連名）であった。 ・金工の「刀 無銘（名物島津正宗）」は『享保名物帳』に載る名物・島津正宗と伝えられる磨上無銘の刀である。その所在が近代以降不明であったが、このたび当館に寄贈されたことで、26年秋開館の平成知新館（新平常展示館）開館展示での目玉の一つとなるものと思われる。 ・絵画で寄贈いただいた作品は、どれも美術史的価値の高い作品であることが特筆される。海北友松筆「禅宗祖師図押絵貼屏風」は流麗さの中に筆線の力強さを併せ持った友松独自の様式をよく伝えるもので、谷文晁筆「福祿寿三星図」は最初期の画業として注目に値する。田能村竹田筆「帯瓢拾句図」は大幅ではないが、文人同士の友情を示す。「厳島・近江八景図屏風」は無款だが、近江八景を扱ったものとしてはかなり早い作例で、保存状態も良好である。全体に屏風や大幅の作品が多く、新しい展示室での展示効果が大きいと期待される。								
								
[寄贈品] 刀 無銘（名物島津正宗）								
○寄託 ・新規寄託の文化財には、妙心寺から国宝「宗峰妙超墨蹟 印可状」や重文「関山慧玄墨蹟 印可状」、重文「花園法皇像 後花園上皇賛」をはじめ、多数の指定文化財が含まれている。天球院の重文・狩野山楽・山雪筆「朝顔図襖」「竹虎図襖」の寄託は寺坊でデジタル複製の襖に入れ替えての原図保存のためであり、博物館が担うべき文化財保存の役割にかなっている。また、展覧会開催に伴う寄託品も飛躍的に増加したのも特徴である。常念寺の重文「仏涅槃図」は26年春開催の「南山城の古寺巡礼」展開催に先立ち寄託いただいた作品で、25年春の「狩野山楽・山雪」展では開催に前後して上述の天球院の襖のほか多数の狩野山雪作品を、25年秋の「魅惑の清朝陶磁」展では京都の旧家から陶磁19件、絵画1件を受託した。 ・返却した寄託品は92件である。								
【定量的評価】								
項目	25年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	21	22	23	24
新規寄贈品件数	13件	—	—		102	35	24	86
寄託品件数	5,892件	—	—		5,957	6,005	6,013	5,914
うち新規寄託品件数	70件	—	—	180	107	93	73	
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 1123

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承																																											
事業名	(1)ー2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用																																											
【年度計画】 (4館共通)																																												
1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。																																												
担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長 岩田茂樹																																									
【実績・成果】																																												
1) ○寄贈																																												
・新規寄贈品件数 25件																																												
○寄託																																												
・新規寄託品件数 49件 内訳：絵画7件、彫刻24件、書跡11件、工芸7件																																												
・寄託については、新規に20人の所蔵者から49件の作品の文化財を受け入れた。																																												
絵画7件（絹本着色行基菩薩像 1幅／絹本着色春日若宮祭礼図・鷹狩図屏風 6曲1双／絹本着色春日社寺曼荼羅 1幅／絹本着色春日宮曼荼羅 1幅／重要文化財旧慈門院障壁画 41面／絹本着色當麻曼荼羅 1幅／奈良市指定文化財 當麻練供養図 1幅）																																												
彫刻24件（重要文化財 木造天神坐像 1躯／銅造阿弥陀如来坐像 1躯／銅造光背 1面／木造阿弥陀如来立像 1躯／木造毘沙門天立像 1躯／木造蔵王権現立像 1躯／木造南無仏太子立像 1躯／木造善導大師坐像 1躯／三重県指定文化財 木造薬師如来坐像 1躯／桜井市指定文化財 木造天神坐像 1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その一） 1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その二） 1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その三） 1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その四） 1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その五） 1躯／桜井市指定文化財 木造神像（その六） 1躯／木造狛犬 1躯／銅造如来坐像 1躯／銅造力士立像 1躯／銅造菩薩立像 1躯／銅造菩薩立像 1躯／銅造十一面観音菩薩立像 1躯／銅造天部坐像 1躯／銅造獅子 1躯）																																												
書跡11件（紙本墨書大中臣親泰和歌懷紙 1幅／紙本墨書公慶上人書状 1幅／紙本墨書柳里恭日記 2帖／彩箋墨書詠歌大概 1帖／紙本着色大乘院殿境内図 1鋪／称讃浄土仏撰受経 1巻／称讃浄土仏撰受経 1巻／紺紙金字大般若経巻第五百五十二 1巻／紺紙金字華嚴経巻第三十七・巻第三十八 2帖／重要文化財紙本墨書法華経（久能寺経） 4巻／写経断簡（五月一日経願文） 1幅																																												
【補足事項】																																												
○寄贈																																												
・新規寄贈品 25 件のほか、「撥鏤工程見本」を受入れたが、平成 10 年度に寄贈された「正倉院宝物模造（撥鏤尺）付 制作過程資料 一括」の内訳として追加登録のため、収蔵品の件数としては計上しない。																																												
○寄託																																												
・絵画部門の寄託品である絹本着色當麻曼荼羅は貞享本と呼ばれ、国宝綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）の當麻寺において制作された写本としてきわめて重要な資料である。																																												
・彫刻部門の寄託品である重要文化財木造天神坐像は、像内に制作された年号を有するとともに、鑄造製の銅鏡を納め、そこに天神の本地仏である十一面観音像を線刻しており、天神信仰の歴史を考えるうえで第一級の資料を提供するとともに、一個の美術作品としてもきわめて優れた作品である。																																												
・書跡部門の寄託品のうち重要文化財紙本墨書法華経（久能寺経）は、平安時代の装飾経を代表する作品として著名であり、その美しさには定評のあるものである。																																												
・工芸部門の寄託品のうち刺繍種子阿弥陀三尊像は、鎌倉時代以降に流行した阿弥陀三尊を刺繍で、しかも種子で表したもので、同時代の阿弥陀信仰と密教との融合を象徴する作品である。																																												
<table border="1"> <tr> <td>【定量的評価】項目</td> <td>25年度実績</td> <td>目標値</td> <td>評価</td> <td>経年変化</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>23</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>新規寄贈品件数</td> <td>25件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> <td>3</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>寄託品件数</td> <td>1,994件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> <td>1,957</td> <td>1,947</td> <td>1,945</td> <td>1,951</td> </tr> <tr> <td>うち新規寄託品件数</td> <td>49件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> <td>9</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>13</td> </tr> </table>									【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24	新規寄贈品件数	25件	—	—		3	8	0	1	寄託品件数	1,994件	—	—		1,957	1,947	1,945	1,951	うち新規寄託品件数	49件	—	—		9	6	12	13
【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24																																				
新規寄贈品件数	25件	—	—		3	8	0	1																																				
寄託品件数	1,994件	—	—		1,957	1,947	1,945	1,951																																				
うち新規寄託品件数	49件	—	—		9	6	12	13																																				
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)																																											
【中期計画記載事項】																																												
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。																																												
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調																																								



[寄託品] 重要文化財・木造天神坐像

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用							
【年度計画】								
1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。								
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 富坂 賢					
【実績・成果】								
1) ○寄贈 <ul style="list-style-type: none"> <li>新規寄贈品件数 4件 内訳：絵画1件、陶磁1件、漆工1件、考古1件</li> <li>○寄託 <ul style="list-style-type: none"> <li>新規寄託品件数 15件 内訳：絵画11件、金工1件、刀剣1件、陶磁2件</li> </ul> </li> </ul>								
【補足事項】								
○寄贈 <ul style="list-style-type: none"> <li>4件の寄贈があった。</li> <li>絵画分野においては、江戸時代後期の文人画家である福原五岳（1730-1799）が描いた山水図6面に阿波国ゆかりの儒者6名が着賛した「紙本墨画山水図押絵貼 六曲屏風 福原五岳筆」1隻の寄贈を受けた。文人や儒者たちの交流のあり方を検討するうえでも興味深い作品である。</li> <li>陶磁分野においては、江戸時代初期の高取・内ヶ磯窯になる「藁灰釉沓形茶碗」1口の寄贈を受けた。割高台の内に「王」字が刻まれた優品である。</li> <li>漆工分野においては、江戸時代後期に京都で活躍した塗師佐野長寛（1791-1863）の作と伝えられる「布袋堆朱香合」1合の寄贈を受けた。中国製の堆朱合子を模して作成された和物堆朱で、今後、製作技法研究に資することも期待できる作例である。</li> <li>考古分野においては、「福島県寺脇貝塚出土 石冠」の寄贈を受けた。線刻のある石冠の優品は稀少であり、かつ出土地も明らかな本作品は、高い資料的価値を有し、縄文時代の展示に光彩を加える逸品である。</li> </ul>								
○寄託 <ul style="list-style-type: none"> <li>15件の新規寄託があった。</li> <li>絵画分野においては、鎌倉時代前期の密教図像で現存例の少ない「烏枢沙摩明王像」や鎌倉時代中期の仏画「阿弥陀三尊来迎図」、近世絵画では、狩野永徳筆の「松に叭叭鳥・柳に白鷺図屏風」をはじめ、雲谷等益、鶴澤探鯨、山本探淵、佐々木泉龍、岸駒らの作品の寄託を受けた。</li> <li>刀剣分野においては、14世紀の兜鉢に近世後期の復古調胴丸からなる「金小札萌黄威胴丸具足」1具の寄託を受けた。</li> <li>金工分野においては、琉球王国における公的な祝宴等で用いられた錫製蓋付瓶で、色とりどりのガラス小玉で装飾された現存稀少な「御玉貫」1対の寄託を受けた。</li> <li>陶磁分野においては、志野茶碗の中でも完品での現存希少な筍図を描いた「志野筍図筒茶碗 銘直進」1口、伊万里・柿右衛門様式の色絵の尺皿として珍しい「色絵船遊人物図大皿」1枚の寄託を受けた。</li> </ul>								
【定量的評価】								
項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
新規寄贈品件数	4件	—	—		0	4	1	3
寄託品件数	1,081件	—	—		1,256	1,297	1,219	1,238
うち新規寄託品件数	15件	—	—		197	50	17	30
総合評価	S <b>Ⓐ</b> B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

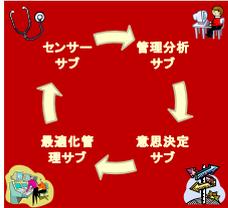


[寄贈品]藁灰釉沓形茶碗

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1211

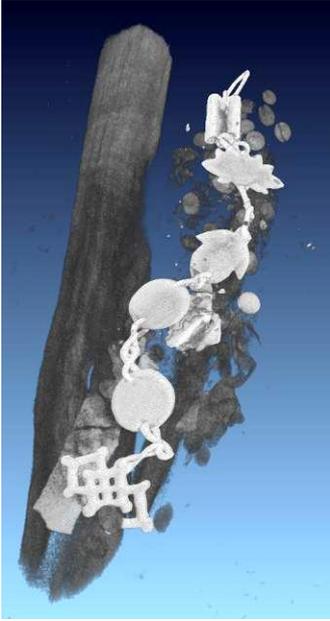
中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2)-1 収蔵品の管理・保存								
<p><b>【年度計画】</b>                  収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。                  (4館共通)                  1) 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。                  (東京国立博物館)                  1) 列品存在確認作業(棚卸)を継続して計画的に実施する。                  2) 歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板・館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用・公開するための作業を進める。</p>									
担当部課	学芸研究部列品管理課 学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 富田 淳 課長 神庭信幸						
<p><b>【実績・成果】</b>                  (4館共通)                  1) 本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として1,492件の保存カルテを作成し、蓄積した。                  (東京国立博物館)                  1) 平成20年度末から実施している、収蔵品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を継続して実施した。                  2) 旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進めた。</p>									
<p><b>【補足事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本格修理時298件、応急修理時408件、列品貸与時786件、合計1,492件の保存カルテを作成した。</li> <li>・文化財保存修復学会第35回大会(25年7月20日、仙台)において「博物館における包括的保存システムの構築に関する研究(V)」を発表した。</li> <li>・臨床支援システムを用いた各種データの有効活用を行い、収蔵品の管理保存の実効性を向上させている。</li> <li>・列品情報整備事業の本格調査5年目にあたる本年度は、絵画・書跡・彫刻・金工・刀剣・陶磁・漆工・染織・考古・民族資料・和書(帝室本)・東洋絵画・東洋書跡・東洋彫刻・東洋金工・東洋陶磁・東洋漆工・東洋染織・東洋考古・東洋民族の諸分野で作業を進めた。平成25年度の調査件数は7,997件である。</li> </ul> <p>※保存カルテ作成件数の計数方法については、23年度より収蔵品及び寄託品のみを対象とし、特別展等の借用品における応急修理時の保存カルテ作成分は含まないものとした(22年度までは含む)。</p>									
				 <p>列品情報整備の作業(東洋民族)</p>					
				 <p>臨床的活動</p>		 <p>臨床支援システム</p>			
列品の保存と管理に対する取り組みと支援システム									
<b>【定量的評価】項目</b>		25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
保存カルテ作成件数 (23年度より計数方法変更)		1,492件	—	—		1,989	2,368	1,187	1,594
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
<b>【中期計画記載事項】</b>									
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(2)-1 収蔵品の管理・保存							
<p>【年度計画】</p> <p>収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (京都国立博物館)</p> <p>1) 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。</p>								
担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長 鬼原俊枝					
<p>【実績・成果】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 貸与に伴う点検時を主体として作成を行っている館蔵品の保存カルテの作成を継続して行い、253件作成した。 ・収蔵品の貸与記録及び館内の展示記録を継続して行った。 (京都国立博物館)</p> <p>1) 年に2回定期的実施している寄託品の期間継続に伴う点検を実施した。 ・24年度に作成した寄託者向けリーフレットを新規寄託受け入れ時に寄託者に手渡しし、引き続き制度への理解を深めてもらうように努めた。 ・新規寄贈品・寄託品を中心に、収蔵庫搬入前に燻蒸作業を積極的に実施した。</p>								
<p>【補足事項】</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 燻蒸作業については、当館収蔵庫のIPM(総合的有害生物管理)向上を受けて、良好な環境維持のために行ったものである。</p>								
								
寄託品の期間継続に伴う点検作業								
【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
保存カルテ作成件数	253件	—	—		214	108	249	215
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 奈良国立博物館処理番号 1213

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(2) -1収蔵品の管理・保存							
<p>【年度計画】</p> <p>収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (奈良国立博物館)</p> <p>1) 文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的保存を図る。</p>								
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 谷口耕生					
<p>【実績・成果】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 保存カルテの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保存カルテについては、文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し、保存修理指導室で作成・保管するシステムの運用が軌道に乗ったことで、120件を順調に作成した。</li> <li>保存カルテのコンディション評価欄に記入されたA～Eの5段階評価についてデータを集計し、館蔵・寄託品データベースに統合するための準備を進めた。</li> </ul> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 文化財保存修理所の運用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学芸部と文化財保存修理所において、修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の3工房代表者との懇談会である今年度第1回目の文化財保存修理所協議会を25年9月24日及び26年2月20日に開催し、各工房の修理事業実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境改善に関する課題などを討議した。</li> <li>館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を、4回実施した。</li> </ul>								
<p>【補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>25年12月25日から26年1月19日まで当館西新館北第1室において保存修理指導室が中心となり準備した特集陳列「新たに修理された文化財」を開催し、前年度に文化財保存修理所各工房などで修理が完了した当館収蔵品・寄託品を修理解説パネルとともに展示することで(8件展示)、文化財修理技術を広く一般に理解してもらう機会とした。</li> <li>文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する日本語版と英語版の案内パンフレットを修理所内に設置した専用ラックに常備し、修理所公開や国内外の修理専門技術者による修理所視察などの機会に配布した。</li> <li>26年2月13日に平成21年から続く文化財保存修理所一般公開を開催し、修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。</li> </ul>								
								
<p>特集陳列「新たに修理された文化財」</p>								
【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
保存カルテ作成件数	120件	—	—		114	218	130	127
総合評価	S <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> B C F (S、Fの理由)							
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2)-1 収蔵品の管理・保存								
<p>【年度計画】</p> <p>収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (九州国立博物館)</p> <p>1) 博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の積極的保存・活用を図る。</p>									
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 今津節生						
<p>【実績・成果】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 収蔵品及び修理完了資料を中心とした保存カルテを94件作成した。 (九州国立博物館)</p> <p>1) 収蔵品・展示品を中心にX線CTスキャナ・3Dデジタイザ・三次元プリンタを用いて非接触で三次元データを取得し、保存状況と構造調査を実施した。測定結果をデータ化するとともに、3Dプリンタで出力した。このデジタルデータは文化財の保存に役立てると共に展示に反映した。また、保存修復施設1～6を運用し、計画的な保存修理事業を進めた。</p>									
<p>【補足事項】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 保存カルテの作成は、修理完了作品の他、収蔵品の中から計画的に対象を選定して行っている。本年度は、前年度に引き続き、寄贈教育参考資料の保存状況を調査しカルテを作成した。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎市聖福寺の御本尊釈迦如来坐像・迦葉尊者立像・阿難尊者立像を調査した。諸像は17世紀の制作で、中国から舶載された仏像としては日本最大級の大きさである。現地および博物館で透過X線撮影を実施して像全体の内部構造把握を行った。その結果、像内に心臓や肺に見立てた金属製の五臓などの内臓模型を納めた「生身仏」の作例であることを確認した。</li> <li>・文化交流展示で展示中の長崎県松浦市鷹島海底沖発見の元寇関連海底遺物に関連して、松浦市教育委員会と協力して海底で錆びついた金属遺物の構造と保存状態の調査を引き続き実施した。海底で錆びた武器・釘等をX線CT調査することによって、モンゴル軍が使用した武器の実態や遺物の保存状態を明らかにすることができた。</li> <li>・文化交流展示で展示した久保惣美術館・泉屋博古館所蔵の中国青銅器について、X線CTスキャナや三次元計測装置による構造調査を引き続き実施した。その結果、中国古代鑄造技術について新たな知見を得た。</li> </ul>									
									
金属製の五臓のCT画像									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
保存カルテ作成件数		94件	—	—	変 化	205	101	107	91
CTスキャン調査		58件	—	—		44	60	60	59
三次元計測		43件	—	—		45	58	55	34
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 東京国立博物館処理番号 1221

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2)-2 施設的环境整備								
<p>【年度計画】</p> <p>展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I P M(総合的有害生物管理)の徹底を図る。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。</p> <p>2) 収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたつて調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。</p> <p>3) 展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。</p> <p>4) 収蔵庫、展示室の温湿度、汚染気体など保存環境に関する年次報告を整備する。</p> <p>5) 輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。</p>									
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 神庭信幸						
<p>【実績・成果】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 収蔵庫など551地点における生物生息状況を夏季に調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 本館収蔵庫に使用する整理箱を設計し、殺虫処理を行い、収蔵環境を総合的に整備した。</p> <p>2) 収蔵庫及び展示室など302地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など34地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測し、蓄積した。これらのデータの解析・評価に基づき、平成館特別展示室の温室度環境を改善するための空調時間延長等の実験を実施し、効果を検証した。</p> <p>3) 本館1階展示室改修工事に伴い、展示資料の展示支持具を設計し、地震対策を強化した。</p> <p>4) 収蔵庫、展示室など232カ所の温湿度に関し、3段階に環境を分類(クラスⅠ、Ⅱ、要注意)した平成25年次報告書を作成した。</p> <p>5) クリーブランド美術館への国際輸送中に梱包箱内で発生する振動・衝撃の計測を実施した。また、特別展「キトラ古墳壁画」出品作品について梱包・輸送及び陳列方法についての事前調査を行い、輸送を含めた環境管理の精度を高めた。</p>									
<p>【補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財保存修復学会第35回大会(25年7月20日、仙台)において「低酸素環境維持機能をもつミイラ展示用ケースの開発」を発表した。</li> <li>・文化財保存修復学会第35回大会(25年7月20日、仙台)において「特別展示場の湿度環境安定化を目指した運用方法の考案」を発表した。</li> <li>・文化財保存修復学会第35回大会(25年7月20日、仙台)において「陸前高田市立博物館における一時保管環境の改善過程」を発表した。</li> <li>・2013 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム(25年9月5、6日、韓国慶州)において「津波で被災した資料の一時保管環境の改善過程」を発表した。</li> </ul>									
									
展示支持具の検討									
【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24	
—	—	—	—		—	—	—	—	
総合評価	S <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> B C F(S、Fの理由)								
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2)ー2 施設的环境整備								
<p>【年度計画】展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 収蔵品の生物被害を防止するため、IPM(総合的有害生物管理)の徹底を図る。 (京都国立博物館)</p> <p>1) 新平常展示館の建物引渡し後に必要な各種整備を実施し、開館準備を進める。</p> <p>2) 新平常展示館の開館までに、空調による調整開始前の空気環境、粉塵等の環境調査を行い、開館後の効率的な展示収蔵環境の維持管理に役立てる。</p> <p>3) 特別展示館(重要文化財 旧帝国京都博物館本館)の免震補強他の改修計画を具体的に検討する。</p> <p>4) 特別展示館の温湿度など、展示・保存環境に関わる調査研究を行う。</p>									
担当部課	学芸部列品管理室 総務課	事業責任者	室長 鬼原俊枝 課長 植田義雄						
<p>【実績・成果】(4館共通)</p> <p>1) 年間を通じて、収蔵庫での網羅的な昆虫類生息調査を行った。また、温湿度モニタリングを拡大した。日常清掃のための備品を拡充した。 (京都国立博物館)</p> <p>1) 24年度に本体工事が完了した平成知新館(新平常展示館)において25年8月に展示ケース工事などが完了、引渡を受けた。</p> <p>2) 平成知新館(新平常展示館)では、空気環境を調査し、東文研基準の展示収蔵環境を整えるための枯らし運転を行った。</p> <p>3) 明治古都館(特別展示館)免震補強ほかの準備として、委託業者を決定し、詳細な建物調査を実施した。また、保存活用計画報告書の原案を作成した。</p> <p>4) 明治古都館(特別展示館)、東収蔵庫等では、展示ケース内の温湿度モニタリングや昆虫類生息調査等、環境監視体制を強化し、状況に応じて、環境の維持・改善を図った。</p>									
<p>【補足事項】○保全業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空調設備の予防的メンテナンスに努め、定期的な保守・点検、各種フィルターの適宜交換等を行い、展示室及び収蔵庫の温湿度環境の適正管理を目指した。</li> <li>・データロガー、毛髪温湿度計、中央監視値を併せた空調運転状況の監視体制を維持した。</li> <li>・電力事情を考慮し、空調運転時間の変更(収蔵庫)や会場準備期における空調停止や設定変更(展示室)を実施した。</li> </ul> <p>○展示室：特別展示館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示室内及び展示ケース内の温湿度モニタリングを継続し、展示品の材質や保存状態、借用条件を考慮した環境監視体制を整え、気象や混雑状況による展示環境の変動等を継続して調査した。</li> <li>・展示室内の昆虫類生息調査は、目視点検を中心に、一部、インジケータ設置による調査を行った。展示室内フロア及び展示ケース内(25年6月)への蒸散性殺虫剤の散布を行った。</li> <li>・展示室エントランスの腰板部分の拭き掃除を、約30名の館員の協力を得て実施することができた。</li> <li>・室内空間、床下部分、小屋裏部分の現地調査を実施した。また、『保存活用計画』に挿入する『価値評価報告書』の作成を京都工芸繊維大学、石田純一郎教授(近代建築史)に依頼した。</li> </ul> <p>○収蔵庫：特別展示館及び東収蔵庫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データロガー等による温湿度モニタリングにより、空調設備の整備・点検・調整を適宜依頼することができた。</li> <li>・特別展示館と東収蔵庫にて昆虫類生息調査(インジケータ調査)を6回(特別展示館80、東収蔵庫90、のべ約170箇所)、東収蔵庫にて付着菌拭き取り検査を1回(8箇所)、特別展示館にて床下のシロアリ生息調査を1回実施した。</li> <li>・清掃備品の拡充、適宜の簡易清掃、各種調査の報告など、予防体制を整えた。</li> </ul> <p>○平常展示館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き渡し後も、各施工業者等の協力を得ながら、収蔵庫・展示室・展示ケース内の空気環境調査、及び調査に基づいた維持・改善のための作業を継続している。</li> <li>・データロガー等による湿度の計測を開始、空調の運転計画や「環境モニタリングシステム」の検討、昆虫類調査等の各種モニタリング体制について検討を始めた。</li> <li>・一部収蔵庫においては、専門的な清掃と調査(IPMメンテナンス)を実施した。</li> </ul>									
 <p>館員による展示室腰板の清掃</p>									
【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24	
	—	—	—	—	—	—	—	—	
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)								
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 1223

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2)-2 施設的环境整備								
<p><b>【年度計画】</b></p> <p>展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I P M(総合的有害生物管理)の徹底を図る。 (奈良国立博物館)</p> <p>1) 展示室及び展示ケースの温湿度管理について、無線LANによるデータ管理システムを更に充実させる。</p> <p>2) 展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。</p> <p>3) 収蔵庫及び展示室の適正な温湿度管理の徹底を図る。</p>									
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 谷口耕生						
<p><b>【実績・成果】</b></p> <p>(4館共通)</p> <p>1) ・館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示にかかわる箇所を中心に、昆虫調査用トラップを2ヵ月に1回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。</li> <li>・収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的に行った。</li> </ul> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 展示室及び展示ケース内の温湿度の管理をすることができる無線LANによるリアルタイムの温湿度管理システムにより、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応した。</p> <p>2) ・展覧会ごとに展示レイアウトに応じて無線LAN温湿度センサーを設置し、期間中に得られたデータを展示終了後に分析して報告書を作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正倉院展終了直後の25年11月12日に、毎年継続的に実施している展示ケース内の粉塵調査を宮内庁正倉院事務所研究員とともにいった。</li> </ul> <p>3) 展示室内の温湿度については無線LAN温湿度管理システムにより24時間リアルタイムで状況を把握した。収蔵庫及び文化財保存修理所各工房内については、ロガータイプの温湿度センサーを各5ヵ所程度設置し、定期的にデータの回収、分析を行うことによって温湿度の変化を把握した。</p>									
<p><b>【補足事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示室・収蔵庫・文化財保存修理所内など館内150ヵ所に設置している文化財害虫調査用トラップを、学芸部研究員が当番制により2ヵ月に1回交換・回収し、回収したトラップは外部業者に委託して文化財害虫の捕獲数データを蓄積した。この調査データをもとに、害虫被害が懸念される箇所を中心に忌避対策及び殺虫処置を実施し、併せて害虫発生を防ぐための清掃による衛生環境の保持などI P Mの実践につなげた。</li> <li>・展示ケースの残留ガス(VOC)をチェックするため、外部機関に検査を依頼するとともに、館内でもパッシブインジケータを利用した独自検査を実施した。</li> <li>・自動調湿装置を内蔵した免震ケースを使用し、気象条件や多数の観覧者など外的要因で展示室内の温湿度環境に変動が生じた場合でも、展示ケース内の温湿度を安定して好条件に保つことができた。</li> </ul>									
									
<p>展示ケース内に設置した文化財害虫用防虫シート</p>									
<b>【定量的評価】 項目</b>		25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
-		-	-	-		-	-	-	-
総合評価	S <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> B C F(S、Fの理由)								
<p><b>【中期計画記載事項】</b></p> <p>展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2)-2 施設的环境整備								
【年度計画】									
<p>展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I PM(総合的有害生物管理)の徹底を図る。 (九州国立博物館)</p> <p>1) 館内の温湿度・空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。</p> <p>2) 全館的視野に立った陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。</p>									
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 今津節生						
【実績・成果】									
<p>(4館共通)</p> <p>1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I PMの徹底を図った。文化財搬入に際し、I PMメンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺菌処理を実施した。 (九州国立博物館)</p> <p>1) 常設展示室70、特別展示室約40、収蔵庫30ヵ所に温湿度計を設置し、環境データを解析した。また、トラップ、ダストを調査して収蔵環境の改善を行った。</p> <p>2) ・新たな温湿度モニタリング装置を導入し、早期対策に努めた。 ・環境データを解析することで、安定した収蔵庫・展示環境を維持することができた。</p>									
【補足事項】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示室に無線でデータを確認できる新たな温湿度モニタリング装置を導入した。これによりデータをすぐに確認できるようになり、早期対策を採ることが可能となった。</li> <li>・本年度も展示、収蔵環境をより安定させることができた。今後も安定を維持しつつ、より一層の効率化を図りながらエネルギーの削減に寄与したい。</li> <li>・収蔵庫・展示室等の約420ヵ所に常時粘着トラップを設置し年間を通して、2週間おきに定期的モニタリングを実施し、害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期に発見対処する体制を維持した。</li> <li>・地元NPO法人やボランティア活動との連携に努め、文化財の適切な管理・保存について市民や地域の理解を深めた。展示室等一般来館者エリアの温湿度記録や生物モニタリングには、本年度も引き続き両者の協力を得た。</li> <li>・平成25年度文化芸術振興費補助金（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）により「市民と共にミュージアムI PM」を実施することにより、I PMボランティア活動やNPO法人等によるI PM支援者活動へのさらなる指導をすすめることができた。</li> <li>・殺虫殺菌処置は、特別展やトピック展あるいはイベント用資料等借用や持ち込み資料についての対応である。内訳は二酸化炭素処置3件、低酸素法処置6件、薬剤くん蒸処置1件。</li> <li>・1階エントランスにあるカフェで昨年に続き文化財害虫が確認されたが、生物モニタリングを継続して観察を進め、徹底メンテナンスによって被害拡大を未然に防いだ。</li> </ul>									
 <p>NPO法人による学芸調査室のメンテナンスの様子</p>									
【定量的評価】項目									
殺虫殺菌処置	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24	
	10件	—	—		7	7	6	6	
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】									
<p>展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 東京国立博物館処理番号 1311-1

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)-1 収蔵品の修理 ①計画的な修理及びデータの蓄積								
<b>【年度計画】</b> 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 (4館共通) 1) 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから74件程度（東京：40、京都：10、奈良：9、九州15）の本格修理を実施する。 (東京国立博物館) 1) 引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。 2) 保存修復関係資料(前年度修理実施分)のデータベース化を図る。(70件程度)									
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 神庭信幸						
<b>【実績・成果】</b> (4館共通) 1) 紙本などの修理技術者として保存修復課に3名のアソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を本格化させた。作品の劣化予防のために408件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから93件の本格修理を実施した。うち国宝2件、重要文化財3件、未指定品2件は寄附金による本格修理である。 (東京国立博物館) 1) 修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む298件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期修理計画策定を進めた。 2) データベース構築のために24年度に本格修理を実施した95件の内、修理が完了した84件の修理内容についてデジタル化を実施した。東京国立博物館文化財修理報告書XIVを刊行した。									
<b>【補足事項】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国宝「鷹見泉石像」(江戸時代)、坪内老大人画稿(江戸時代)、坪内老大人像(江戸時代)はバンク・オブ・アメリカからの寄附金により修理を開始した。</li> <li>・ 文化財保存修復学会第35回大会(25年7月21日、仙台)において「花車図屏風(東京国立博物館蔵)の修理事例～修理におけるクリーニング効果に着目して～」を発表した。</li> <li>・ 文化財保存修復学会第35回大会(25年7月20日、仙台)において「作品に安全な展示方法の新案②-ミニチュール展示の工夫を例として-」を発表した。</li> <li>・ 文化財保存修復学会第35回大会(25年7月20日、仙台)において「東京国立博物館所蔵コプト裂—プレッシャーマウント法等による安全な固定・保管・公開—」を発表した。</li> </ul>									
									
						列品番号A-1069「檜図屏風」の修理風景			
<b>【定量的評価】項目</b>		25年度実績	目標値	評価	経年 変化	21	22	23	24
修理件数(本格修理)		93件	40件	S		106	139	106	95
文化財修理データベース化件数		84件	70件程度	A		53	98	114	83
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)								
<b>【中期計画記載事項】</b> 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調						

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)-1 収蔵品の修理 ①計画的な修理及びデータの蓄積								
<p>【年度計画】</p> <p>修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 (4館共通)</p> <p>1) 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから74件程度（東京：40、京都：10、奈良：9、九州15）の本格修理を実施する。 (京都国立博物館)</p> <p>1) 中長期的修理計画の策定を検討する。 2) 収蔵品修理資料のデータベース化に向けた調査を開始する。</p>									
担当部課	学芸部列品管理室 学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 鬼原俊枝 室長 浅湫毅						
<p>【実績・成果】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 館費による修理に加えて、外部資金として財団の修理助成による修理を2件、昨年度より継続して実施した。 ・修理中に修理請負候補者選定委員による工程検査を行い、修理が適正に実施されているかを現場確認した。 ・本格修理実績 15件 内訳は絵画3件、彫刻1件、金工5件、漆工1件、染織4件、考古1件 (京都国立博物館)</p> <p>1) 中長期的修理計画の策定に向けて、各分野の作品担当との調整に入った。 2) 収蔵品データベースの更新計画において、修理情報の集積を盛り込むことを念頭に、必要項目の洗い出しとデータ状況の確認を開始した。</p>									
<p>【補足事項】</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>1) ・昨年度決定した修理助成を事業費に充当して館蔵品の修理を実施中である。朝日新聞文化財団の助成による国宝病草紙10面の修理(4年間助成額約2000万円)、出光文化福祉財団による重要文化財紙本著色若狭国鎮守神人絵系図1巻の修理(2ヵ年800万円)を継続している。 ・修理請負候補者選定委員会委員は、唐織 紅白濃茶段枝垂桜文様の修理の工程検査を修理担当工房の現場に赴いて行った。また、刀剣類の修理についても同様に実施した。本工程検査を通じて、修理事物が適切な修理を受けていることが確認され、委員は修理に対する理解を深め、技術者は文化財の価値に関する判断を受ける機会となる。今後もできるだけ工程検査を行えるよう努力したい。 ・館蔵品の修理は緊急性の高いものから実施するよう努め、中長期的計画の策定に向けて努力しているが、修理事業費が限られているため、高額修理の継続事業化と少額修理計画との組み合わせによる中期計画を今後も検討していきたい。</p> <p>2) 文化財保存修理所では、本年度は101件の新規修理文化財の搬入がありデータベース化を行った。また、過去のデータに関して1920回追加、更新を行った。</p>									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
修理件数(本格修理)		15件	10件	S	5	9	10	13	
文化財修理データベース化件数		101件	—	—	114	106	118	93	
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



唐織 紅白濃茶段枝垂桜文様

【書式A】

施設名 奈良国立博物館処理番号 1313-1

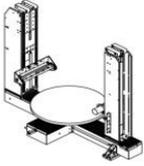
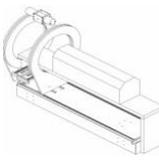
中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(3)-1 収蔵品の修理 ①計画的な修理及びデータの蓄積							
<p>【年度計画】</p> <p>修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから74件程度（東京：40、京都：10、奈良：9、九州15）の本格修理を実施する。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 引き続き修理の中長期的計画に基づき修理を実施する。</p> <p>2) 修理資料のデータベース化を図る。</p> <p>3) 寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。</p>								
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 谷口耕生					
<p>【実績・成果】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) ・ 館蔵品修理8件のうち、新規4件、前年度からの継続事業4件を実施した。</p> <p>内訳 絵画4件（※うち重要文化財 絹本着色十王図1件は3ヵ年継続事業の最終年度。重要文化財 絹本着色普賢延命像1件は2ヵ年継続事業の最終年度。絹本着色六字経曼荼羅1件は2ヵ年継続事業の1年目。）</p> <p>書跡1件</p> <p>工芸1件（※国宝 刺繍釈迦説法図1件は4ヵ年継続事業の2年目）</p> <p>考古資料2件（※うち陶棺（奈良市西大寺出土）1件は2ヵ年事業の最終年度。鉄製品（二塚古墳出土）1件は2ヵ年事業の1年目。）</p> <p>・ 年度内に5件が完了した。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 平成22年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、計画通りに館蔵品修理を実施している。</p> <p>2) 前年度に引き続き、当館紀要『鹿園雑集』に「奈良国立博物館文化財保存修理所 修理一覧の掲載作業を進めるとともに、併せて修理報告資料を整理し、データベース化を進めた。</p> <p>3) 寄託品2件について当館の推薦による財団助成を受けて修理を実施した。</p>								
<p>【補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 賛助会員や協賛企業からの寄付金を館蔵品修理費に使用する従来の規定に加えて、展示会場入り口に募金箱を設置して募った寄附金を収蔵品の修理費に使用する取扱要項を新たに策定し、これに基づいて前年度からの継続事業である絹本着色十王図(3ヵ年継続事業の最終年度)及び絹本着色安東円恵像の重要文化財2件、刺繍釈迦如来説法図の国宝1件の修理を実施した。</li> <li>・ 寄託品修理については、出光文化福祉財団の助成による兵庫・温泉寺所蔵重要文化財黒漆厨子の1件について新規着工し、出光文化福祉財団・朝日新聞文化財団の助成による京都・海住山寺所蔵阿弥陀浄土曼荼羅修理の1件を23年度からの継続事業（3ヵ年継続事業の最終年度）として引き続き実施した。</li> </ul>								
								
<p>館蔵絹本着色安東円恵像の 解体修理に伴う肌裏打作業風景</p>								
【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
修理件数(本格修理)	8件	9件	B		11	9	11	9
文化財修理データベース化件数	73件	—	—		—	—	54	70
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

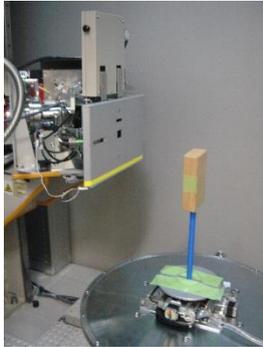
中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(3)-1 収蔵品の修理 ①計画的な修理及びデータの蓄積							
【年度計画】								
修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。								
(4館共通)								
1) 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから74件程度（東京：40、京都：10、奈良：9、九州15）の本格修理を実施する。								
(九州国立博物館)								
1) 博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。								
2) 修理資料のデータベース化の調査を実施する。								
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 今津節生					
【実績・成果】								
(4館共通)								
1) 館所蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財36件（本格修理17件、応急修理19件）を修理した。								
(九州国立博物館)								
1) 九州をはじめとする館外所蔵者負担による文化財修理29件のために、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。館費による修理とあわせて65件の修理を実施した（施設内修理62件、施設外修理3件 合計65件）。								
2) 修理報告書及び修理経過を示す画像データを整理して、データベース化に備えた。								
【【補足事項】								
(4館共通)								
1) 館費による修理件数36件（本格17、応急19）								
（絵画17（うち本格5、応急12）、書跡5（うち本格2、応急3）、彫刻3（うち応急3）、金工1（うち本格1）、刀剣2（うち本格2）、染織5（うち本格5）、歴史資料3（うち本格2、応急1））								
(九州国立博物館)								
1) 修復施設1～3では、(社) 国宝修理装演師連盟が館所蔵品11件の他、国宝・那覇市所蔵琉球国王尚家関係資料文書記録類や重要文化財・大分市立美術館所蔵田能村竹田関係資料など合計54件の修理を実施した。								
修復施設4では美術院が3件の仏像の修理を実施した。								
修復施設6では目白漆芸文化財研究所が5件の館所蔵品等の修理を実施した。								
修復施設外では美術院が1件の仏像の修理を、有限会社藤代が2件の館所蔵刀剣の修理を実施した。								
								
当館所蔵朱漆花鳥草樹螺鈿二層の修理風景 (修復施設6で目白漆芸文化財研究所が施工)								
【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
修理件数(本格修理)	17件	15件	A		24	19	19	20
文化財修理データベース化件数	—	—	—		—	—	—	—
修復施設の活用(補助事業等)	29件	—	—		26	23	19	22
表具裂データ	10件	—	—		24	9	0	0
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1311-2

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)-1 収蔵品の修理 ②科学的な技術を取り入れた修理								
<p>【年度計画】伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 (4館共通)</p> <p>1) 紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 (東京国立博物館)1) X線CTスキャナーの導入に向けて取り組む。</p>									
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 神庭信幸						
<p>【実績・成果】(4館共通)</p> <p>1) 絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を34件(A-1069 檜図屏風 など)実施し、本紙の保存に関して検討を行った。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析66件(J-16231黒曜石など)、X線透過撮影19件(TJ-2209鉄鉞戟など)、高精細デジタルスキャナーによる可視・赤外域の撮影 3件(A-9972 鷹見泉石像など)の科学的調査を実施した。これらの結果を構造調査と修理設計に役立てた。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 大型垂直式X線CTスキャナー、大型水平式X線CTスキャナー、微小部X線CTスキャナーなど3機種を導入し、試験運用を開始した。</p>									
<p>【補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保存修復学会第34回大会(25年7月21日、東京)において「名物裂を用いた表装裂の復元に関する共同研究」を発表した。</li> <li>2013 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム(25年9月6日、韓国慶州)において「文化財の断層撮影に適した大型X線CTスキャナーの開発」を発表した。</li> <li>東京国立博物館でもより深い文化財調査を行うべく、性能の違う3台の大型X線CTを設置し、研究を開始した。</li> </ul> <p>設計概念は、様々な分野の、様々な大きさの、細かい観察に対応できる装置を目標とした。1) 大型の文化財が撮影できる(垂直撮影)、2) 立てられない大型文化財が撮影できる(水平撮影)、3) 細かな透過観察撮影ができる(微小部撮影)</p>									
									
						ポータブル型蛍光X線分析装置による旧修理個所の状態調査作業			
		大型垂直式 X 線断層撮影装置 Vertical CT	大型水平式 X 線断層撮影装置 Horizontal CT	微小部 X 線断層撮影装置 Precision CT					
									
マニプレータ	全体寸法	約 5,400x 4,200x 4,300mm	約 5,100x 2,800x 4,450mm	約 2,500x 1,200x 2,000mm					
	対象物最大重量	500kg	100kg	25kg					
	テーブルサイズ	φ 2,500mm / φ 1,200mm	長さ x 幅 : 3,000mm x 920mm (複合素材製)	φ 450mm					
検出器		ラインセンサー(LDA) Y.LineScan 250-16-100 ピッチ : 254 μm, 4,030 素子 耐電圧:600kV	フラットパネル検出器 Y.XRD1621 AN15 ES"premium"有効画素数 : 1,024x1,024 2,048x2,048						
		線源	X線発生装置	管電圧 : 20kV-600kV 最大管電流 2.5 mA、焦点寸法:準拠 EN 12543:1.0mm/0.4 mm	管電圧 : 20kV-600kV 最大管電流 2.5 mA、焦点寸法:準拠 EN 12543:1.0 mm/0.5 mm	管電圧 10 kV-225kV, 最大管電流 3.0mA 最大出力 320/64 W,最小焦点寸法 <6μm、最小識別度<3μm			
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価	経年変化				
総合評価		S	(A)	B C F (S、Fの理由)	—	21	22	23	24
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(3)-1 収蔵品の修理 ②科学的な技術を取り入れた修理							
<p>【年度計画】</p> <p>伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。</p> <p>2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 文化財材質分析システム等を整備する。</p>								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 村上 隆					
<p>【実績・成果】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) ・2) 「病草子」(紙本着色/平安時代後期/国宝)の修理に伴って、各種の光学調査と紙質分析を実施し、修理指針の検討に役立てた。(詳細は処理番号4562-2を参照)</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>1) ・平成知新館(新平常展示館)に科学調査室及びX線撮影室を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財用マイクロフォーカスX線CTシステム、非接触3次元デジタイザ等の機器を調達した。</li> </ul>								
<p>【補足事項】</p> <p>(4館共通)</p> <p>2) 文化財の材質・技法・保存状態等に応じた様々な光学的調査が、効率的かつ安全に実施できるような文化財材質分析システムの整備をすすめている。これによって、文化財の使用材料や伝統的技術の解明、精度の高い文化財保存修理の実現に寄与したい。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>1) ・本年度は、マイクロフォーカスX線CTシステム、非接触3次元デジタイザ、フーリエ変換赤外分光光度計、蛍光観察システム等を調達することができた。来年度購入予定機器とともに、様々な分析・調査に応用していく予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクロフォーカスX線CTシステムは、従来から文化財調査に汎用されているX線透過装置と、より微細な構造観察が可能なマイクロフォーカスX線CTスキャン装置との2種の装置によって構成されている。</li> <li>・X線検査装置導入にあたっては、十分な放射線遮蔽構造と安全機構を設け、設置工事の後に隣室・階上等において漏洩検査を実施し、管理区域外に放射線の漏洩がないことを確認した。</li> </ul>								
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p style="text-align: center;">マイクロフォーカスX線CTシステムの設置工事および漏洩検査風景</p>								
【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
科学的調査	1件	—	—		—	—	—	1
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。		順調						

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 1313-2

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)-1 収蔵品の修理 ②科学的な技術を取り入れた修理								
<p>【年度計画】伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 (4館共通)</p> <p>1) 紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 (奈良国立博物館)</p> <p>1) 木造文化財について、木材樹種同定の調査を行い、文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品、木造彫刻などのX線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。</p>									
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 谷口耕生						
<p>【実績・成果】(4館共通)</p> <p>1) 館蔵紙本墨書立川流儀軌残巻の修理に際して料紙の繊維分析を実施し、補紙として用いる紙の仕様を決定した。(実施計1回)</p> <p>2) ・館蔵絹本着色普賢延命像の修理に際し、当館光学調査室の機器を用いて肌裏に残る顔料の蛍光X線分析を実施した。(実施計1回)</p> <p>・館蔵刺繍釈迦如來說法図及び海住山寺所蔵阿彌陀浄土曼荼羅の修理に際し、ポリライトを用いて画面の蛍光画像調査を実施し、これに基づいて詳細な損傷図を作成した。(実施各1回、計2回)</p> <p>・館蔵絹本着色六字経曼荼羅及び館蔵絹本着色安東円恵像の修理に際し、当館写真室において高精細デジタルカメラによる近赤外線撮影を実施し、補絹・補彩・損傷状態の観察を行った。(実施各1回、計2回)</p> <p>・寄託品黒漆厨子(温泉寺蔵)の修理に際して当館研究員が透過X線画像を撮影し、木工の構造把握につとめた。(実施計1回)</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 当館文化財保存修理所で修理施工された木造彫刻作品3件について、京都大学生存圏研究所に委託して樹種同定調査を実施し、その成果を当館研究紀要『鹿園雑集』に掲載した。</p> <p>2) 古墳出土の鉄器を中心とする館蔵考古資料1件の修理に際し、X線撮影及び蛍光X線による材料分析を実施し、修理方針の決定に役立てた。(実施計2回)</p>									
<p>【補足事項】</p> <p>・文化財保存修理所各工房が当館館蔵・寄託品を修理するに際して文化財調査を学芸部研究員と共同で実施し、データの収集・共有化に努めた。また同調査を円滑に進めるために当館の備品である光学機器(高精細デジタルカメラ、近赤外線カメラ、蛍光X線分析器、ポリライト)を積極的に利用した。</p>									
									
<p>国宝刺繍釈迦如來說法図(館蔵)の修理に伴う光学調査に基づいて作成した損傷地図</p>									
【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24	
収蔵品修理に伴う光学的調査の実施回数	9回	—	—	—	—	—	—	—	
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)								
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3) -1 収蔵品の修理 ②科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 (4館共通) 1) 紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。									
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 今津節生						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 当館所蔵国宝栄花物語及び重要文化財対馬宗家関係資料等の紙本作品7件について繊維同定を行った。 2) ・東京国立博物館所蔵唐人物図屏風のオゼ部分に隠れていたオリジナルに近い彩色について、高精細画像で記録した。 ・当館所蔵仏涅槃図命尊筆の裏彩色について顕微鏡による観察と写真撮影を行った後、ポータブル蛍光X線分析装置を用いて絵の具の材質分析も行い、使用されていた絵の具の調査を行った。									
【補足事項】 ・各種最新の分析機器を備えた博物館内に修復施設が設置されている特色を生かし、絵画、書跡、歴史資料、漆工などの各専門分野を持つ研究員と修理技術者、文化財科学専門の研究員の3者が共同で修理作品の調査、検討を行い、最善の修理を行うことができた。 ・例えば、文化財科学専門の研究員は、【実績・成果】に記したように多くの調査を実施した。このことにより、作品の材質や技法、構造を詳しく知ることが可能となり、安全かつ適切な修理の実施に役立つことが非常に大きかった。特に、今回のように修理中でしか見ることができない、隠れていた部分の彩色の調査が実施できたことは、大きな成果である。 ・右写真は、修理時にしか見ることができない彩色の典型例で、薄緑色の絵具の中に白色の絵具が混じっていることがよく解る。蛍光X線分析の結果も加味し、緑色は銅系緑色顔料に、白色は鉛系白色顔料と考えられる。 ・また、絵画、書跡、歴史資料、漆工などの専門を持つ研究者と協議しながら修理を進めることができたので、各作品の特色を踏まえ、取り扱いや保管、展示についても十分に考慮した修理ができた。 ・このように、館内で打ち合わせを密にしながら修理を進められる環境にあることが、有意義であった。									
【定量的評価】項目		25年度実績	目標値	評価					
科学的調査		10件	—	—	経年 変化	21	22	23	24
						7	7	24	11
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					



仏涅槃図 命尊筆の裏彩色写真  
(写真の幅が約2mm)

【書式A】

施設名

京都・奈良・九州国立博物館

処理番号

1320

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)-2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。								
【年度計画】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) 1) 文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 (京都国立博物館) 1) 文化財保存修理所の修理を行う。									
担当部課	京都国立博物館総務課 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 植田義雄 課長 中村 恵 課長 今津節生						
【実績・成果】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) 1) 京都国立博物館の文化財保存修理所の空調機を点検し、空調機内の中性能フィルターを一部の空調機で交換した。 ・奈良国立博物館の文化財保存修理所の消火設備を現状のスプリンクラー設備に換えて、火災時に収蔵品を毀損する恐れのないガス消火設備（ハロンガス）を設置した。 ・奈良国立博物館の文化財保存修理所の防犯センサーを更新するとともに監視カメラを新たに設置した。 ・九州国立博物館の保存修復施設について、室内温湿度環境の改善の検討を行った。  (京都国立博物館) 1) 文化財保存修理所改修工事（一期工事）に着手した。									
【補足事項】 (京都国立博物館) 1) 年度内には仮工場の整備を終えた。									
									
			仮工房1階			仮工房2階			
【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	
総合評価	S ④ B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(3)-3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。							
【年度計画】 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。								
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部列品管理室 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部文化財課	事業責任者	課長 富田 淳 室長 鬼原俊枝 課長 中村 恵 課長 富坂 賢					
【実績・成果】 (東京国立博物館) ・東洋館の各収蔵庫について適切な配置を検討し、より効率的に収納が可能となるように収蔵品を移動した。 ・東洋館3階の収蔵庫の断熱を強化し、温湿度環境の向上を図った。 ・資料館3階の収蔵庫に棚を追加し、収納の効率化を図った。 ・平成館地下考古収蔵庫の扉を修理し、より円滑に作品を搬出入できるようにした。 (京都国立博物館) ・温湿度などの計測情報を常時監視でき、同時にサーバーにて一元的に管理・蓄積できる「環境モニタリングシステム」の、平成知新館（新平常展示館）での運用について精査し、設計変更や運用方法に反映させ、導入した。 ・平常展示館内のフィルム保管室の温湿度環境について、設定温湿度、空調時間、運用方法等の検討を行った。 ・デジタルカメラ等撮影機材の導入、及びサーバーの構築を行い、デジタル撮影への移行を進めている。 (奈良国立博物館) ・火災時に収蔵品を毀損する恐れのないガス消火設備（ハロンガス）を収蔵庫・一時保管庫に設置した。 ・既存の収蔵棚を改造し、より効率的な収納を図った。 ・収蔵庫内壁の断熱を強化し、温湿度環境の向上を図った。 (九州国立博物館) ・図書閲覧室に書棚（40台程度）を設置し、寄贈書受け入れスペースを増やした。								
【補足事項】 (京都国立博物館) ・平常展示館では、展示室、収蔵庫ともに、中央監視による集中的な空調管理と併せて、室内複数場所での温湿度・照度・加速度等の常時モニタリングとそれらのデータを蓄積・分析できる「環境モニタリングシステム」を導入した。 ・「環境モニタリングシステム」の、安全で確実かつ効率的な運用を目指して、新収蔵庫内での電波強度の調査や、既存の収蔵庫内での実験、アプリケーションの検討等を繰り返した。これらの結果を設計・仕様へ反映した。 ・平常展示館フィルム保管室内の温湿度モニタリングを開始した。空調機に加え、除湿器などを検討しながら、フィルムにとって安全で、持続可能な運用方法を検討している。								
								
				<p>環境モニタリングシステムのための電波強度調査(京都国立博物館)</p> 				
				<p>閲覧室複柱式書棚増設 (九州国立博物館)</p>				
【定量的評価】項目	25年度実績	目標値	評価	経年変化	21	22	23	24
—	—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				